

Plan Do See

「ひとはひとによってひととなる」 あさひ野小学校 校長 松原 隆志

縁あって、二十余年ぶりに朝日町に勤務することになりました。私は初任が五箇庄小学校で、教員としてのスタートはここから始まりました。その後大家庄小学校へ赴任し、朝日町に十年間勤務しました。当時は、新米の私に対しても「先生、先生」と親しく、また優しく声掛けしてくださり、いろいろな面で助けていただきました。振り返ってみますと、教員として知らないことが多く、迷惑をかけていたなど大変恥ずかしい限りです。



当時お世話になった地域の方々や保護者の方々等、多くの方から「お帰りなさい」「また朝日町に戻って来られましたね」「先生、朝日町大好きながいね」と嬉しい言葉を掛けていただきました。また、当時担任していた教え子たちが立派に成人し、今父親、母親として子育てをしている姿に大変頼もしさを感じます。

さて、「ひとはひとによってひととなる」という言葉があります。ここには「ひと」という言葉が、三か所あります。最初の「ひと」は生物的な意味合いのヒト、次の「ひと」は「親や教師など」、そして最後の「ひと」は「人間」だということを聞いたことがあります。これは「ヒトは親や教師によって人間になる」つまり、「人は環境によって教育される」ということです。この言葉は、そのまま私の教員人生に当てはまる言葉だと、私は思っています。先輩の先生方、保護者や地域の皆様に支えていただいたおかげで、今の私があるのです。もちろん子供たちがそばにいてくれたことが第一です。ただただ感謝です。生意気な言い方になりますが、少しでも恩返しができればと思うこの頃です。

では、何ができるのでしょうか。私たち教員の使命は、子供たちの健全育成と学力の向上でしょう。そのために、私たちは教員としての資質の向上、教師力を身に付けていくことが求められます。今の世の中、私が教員になったときのように甘いものではありません。「先生になったばかりだから大目に見よう」などとおおらかな風土は小学校からは消えてしまったと言っていいでしょう。新採といえどもある程度安定した学級経営や学習指導ができる教員であることが求められます。当然、中堅のリーダーやベテランと呼ばれる年代の教員は若手をしっかりと養成していくことが喫緊の課題です。

「教員は、人によって、プロの教員となる」と考えています。人によってというと、他力本願のようにも聞こえますが、決してそうではありません。自己研鑽し、人的環境を広め、様々な人の中で資質を高めていく。また、学校現場で子供たちを指導することで身に付けていく知恵や技能、感覚を大事にしていく。子供の出しているサインの中に隠れているものを肌で感じる力、見えないよさや可能性を見抜く目を高めていく。そうした力は、子供一人一人と誠実に向き合い、教師自身が感性を磨き続けることでしか高めることはできないことでしょう。もちろん私自身、まだまだです。OJTを大切にしながら、心と心のつながりを強め、共に高め合う環境をつくりたいと考えています。そうすることが、これからの教育を担う教員が、プロの教員になる一助、またお世話になった方々への恩返しになるのではないかと考えています。



「失礼します。〇年〇組の〇〇です。〇〇先生に用事があって来ました。」元気のいい挨拶が職員室に響きます。生徒が職員室に来たとき、先生方は、一斉に生徒に視線を向ける。何の用事で来たのかはもちろん、話す言葉や身なりに注目して生徒をみる。声が小さかったり、間違っただけの言葉遣いをしたりしたらすぐやり直しをさせる。生徒にとっては緊張の一瞬であるが、何度か職員室を訪れているうちに何でもない行動となる。「挨拶をすること」「自分の名前を言うこと」「用件を言うこと」が習慣化されるのである。習慣化されるということは、身に付くということである。身に付いた行動は、高校

へ行っても社会に出ても実践できる。誰にでも元気に挨拶をし、しっかり自分の用件を告げることができるようになる「挨拶をすること」、「人の話をきちんと聞くこと」、「自分の考えを発表すること」は、学校生活や学習の基本である。これらの行動をいかに身に付けるかをこの学校でも工夫し、実践している。

朝日中では、毎朝、生徒は生徒玄関で「おはようございます」と生徒や先生方と挨拶をする。廊下でも先生と出会えばいつでも「こんにちは」と挨拶をする。「さわやか運動」では、地域の人々と挨拶をする。授業の始まりと終わりに会長の号令で「お願いします」「ありがとうございました」、掃除の時は「ご苦労様でした」と挨拶をする。また、給食の時、ランチルームで給食委員長の号令で「いただきます」「ごちそうさま」と挨拶をする。このときただ挨拶をするのではない。給食委員長に全員が注目し、体を向けて話を聞き、元気よく、気持ちを込めて挨拶をするのである。学校や家庭、地域での日々の実践が生徒を大きく成長させる。何気なく繰り返される一つ一つの日々の実践が元気のある朝中生を育てるのである。

研修の紹介

「セルフエスティーム（自尊心）」の向上を目指して

さみさと小学校 研究主任 兵庫 秀典

今年度の本校のキーワードは「セルフエスティーム」の向上です。本校では、「分かる授業」と「望ましい集団づくり」を教育活動の両輪と考え、本年度の研究主題を昨年度に引き続き「一人一人が豊かに関わり合いながら、学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる子供の育成」と設定しました。

1学期は、国語科の優れた実践者を講師として招き、教材研究の在り方や子供の実態把握の方法等について指導していただいたり、総合教育センターの調査研究とタイアップして、対人関係ゲームを用いた集団作りの方法を教わったりし、教師のスキルアップに取り組みました。

2学期になり、授業研究が本格的になってきました。これまでに学んだことや各自の取組をお互いに学び合い、日々の授業に反映させていきたいと思っております。すぐに成果は表れないかもしれませんが、徹底して実践していくことで、子供たちは変容していくとわたしたちは信じています。そして、子供たちが学ぶ楽しさや分かる喜びを実感し、セルフエスティームを向上させていくことを願っています。



「共に学び、高め合う子供の育成を目指して」

あさひ野小学校 研究主任 水島 真寿美

一つのボードを囲んで子供たちがあれこれと話し合う。自分の考えを図で表したり式に書いたりする。その横で付け足したり線を引いたりして考えを書き込んでいく。時には躊躇、戸惑いそして対立が始まる。学び合いを意識した授業、ペアやグループを取り入れた学習形態の工夫やボードを利用した授業を重ねるにつれて、子供たちは、全体学習では見せない表情や発言を見せるようになった。



昨年度から「学び合い」をキーワードとして研修を進めてきた。本年度はその学び合いを「授業づくり」「集団づくり」「言語活動の充実」の視点から研修を進めている。5月のアンケートでは、学年が進むほど「グループで話し合うことが楽しい」の割合が「学級で話し合うことが楽しい」を上回る傾向にあった。みんなの場では話せなくても、身近な仲間となら話し合うことができる。また、「分からん」「ちょっと、教えて」と仲間自然と言え学級。課題が早く終わった子がミニ先生となって仲間に教える。「〇〇君が分かるように説明しよう。」とあれこれ策を練る。自分のために、そして仲間のために学習に取り組む姿が増えてきた。自分の思いを表現する場の設定を意識して取り入れ、集会活動をはじめとする児童会活動も活発に機能するようになってきている。しかし、互いの話に、心を傾けて聴く姿勢や自分の思いを書くという面では成長を期待したい点もある。

2学期からは特に生徒指導面とも関連させて、学習規律について全教職員が意識して取り組んでいる。挨拶の仕方、ノートを取り方、発言の仕方など基本に戻って。そうすることにより授業への心構えや授業への参加意識、達成感が高まると考える。また、全学級が共通の学習プレートを活用して授業の流れを子供たちに提示している。教師の45分間の授業の仕組み方、子供の学習の見通し、両者にとって大変有効である。3つの視点を全教職員が共通理解し共同実践する「みんなで高め合う」研修体制を築いていきたい。“小さなことからこつこつ”ではないが、あきらめずに根気よく指導していくことが子供たちの学びを高めると思う。

自分一人が分かるのではなく、仲間みんなが分かるように。仲間みんなが分かったできた喜びを共有できるような学び合いを目指して今後も根気よく取り組んでいきたい。もちろん、教員全体も子供たち同様、互いに学び合って高まっていきたい。

今年度、朝日町にいらっしやっただフレッシュな先生方を紹介します。

その2

ようこそ！朝日町へ

「朝日町に着任して」

あさひ野小学校 中島 亮



新規採用で朝日町の勤務となり、不安もありましたが、そんな不安をかき消してくれたのが、元気で人なつこいあさひ野小学校の子供たちでした。素直な子供が多く、毎日いっしょに勉強したり、休み時間は身体を使って遊んだりするのをとても楽しみに勤務しています。

九月一日の始業式では、子供たちの日に焼けた元気な姿がとても印象的でした。朝日町の自然豊かな環境が子供たちのよさをそだてていることを感じました。

これからも周りの先生方やPTA、地域の皆様いろいろなことを教えていただきながら、子供たち一人一人のよさを引き出していけるように全力で取り組んでいきます。また、子供たちと共に、楽しい思い出をたくさんつくっていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「最近感動したこと～秋季大運動会～」

さみさと小学校 鍋嶋 祥平



さみさと小学校に着任して、早くも7か月が過ぎようとしています。元気いっぱいな子供たちの笑顔に励まされて、毎日楽しく過ごしています。

9月、さみさと小学校に着任して、初めての秋季大運動会が行われました。学年での練習、予行練習と多くの練習を重ねてきた子供たちでしたが、当日の朝、みんな緊張した面持ちをしていました。「はあ、緊張するなあ。」とため息をもらしながら、つぶやいているのが耳に入りました。私は、「大丈夫！がんばっている姿を堂々と見てもらったらいいんだよ。」などと言ってみますが、こわばった表情が多少和らいだだけのように見えました。

「入場行進開始1分前です。」アナウンスが、グラウンドに鳴り響きました。いよいよ行進が始まりました。腕を大きく振り、足を力強く踏みしめ、堂々と前へ前へと行進する子供たちの姿は、本番前の不安そうな表情を微塵も感じさせませんでした。その姿を見ている内に、私の胸は熱くなりました。そして、「真剣に取り組む姿は、人を感動させるのだな。」と強く実感することができました。私は、そのような物事に真剣に取り組みたい子供たちの気持ちを大切にできる教師を目指して、これからもがんばっていきたいです。

「さみさと小学校に着任して」

さみさと小学校 高澤 伸治



さみさと小学校に着任して6か月が過ぎました。大学を卒業し、今年の4月から初めての臨任講師として働くことになりましたが、先生方に助けていただきながら楽しく充実した毎日を過ごしています。

さみさと小学校の子供たちは、思いやりの心に溢れています。子供たちとの普段の関わりの中で、困っている友達と一緒に手をつないで移動する子供の姿を見ると、心が温かくなり、私自身元気をもらいます。

先日行われた運動会では、子供たちの努力する姿、協力する姿を間近に見ることができました。特に、高学年の組み体操ではなかなか練習ではできなかった技を本番で5、6年生全員が力を合わせて成功させている姿を見てとても感動しました。

そんな子供たちの手本となれるよう、優しくそして時には厳しい先生になれるよう努力していきたいです。

このような素晴らしい先生方、子どもたちに囲まれながら教員として働くことができることは本当に幸せです。これからも精一杯頑張っていきたいと思います。

「感謝の気持ちをもって」

朝日中学校 山崎 美津子



長い間離れていたふるさとの朝日町に帰って、朝日中学校への着任が決まった時、思い出のある母校に勤務できることをとても嬉しく思いました。校舎は赤いレンガ色から新しい姿に変わっていて驚きましたが、ここから見える風景や街並みは、昔のままで、懐かしく思いました。朝日中学校では、「おはようございます」

「こんにちは」などさわやかな挨拶が、いつも響きわたっています。生徒の礼儀正しさ、素直さ、温かさにつれて、昔から大切にできてきた朝日中学校の伝統が今も続いていることを実感しました。

美術の授業では、子供たちが「先生、できた！」と試行錯誤しながら作った個性あふれる作品を見ると本当に嬉しくなります。美術は他の教科のように答えは1つではありません。美術を通して、人には、それぞれの個性があり、自分自身もかけがえのない一人であることを様々な視点をもって学んでほしいと思います。また、自分の感性を磨いて、美しいものを美しいと感じる心をもってほしいと思っています。そのためにも子供たちが生き生きと制作して、美術の面白さや楽しさを味わえるように頑張りたいです。そして、今の朝日中学校を築いてくださった、先生方、先輩、家族、地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、子供たちと共に学び成長していきたいです。よろしくお祈りします。

「朝日町で教師生活をスタートして」

朝日中学校 相田 健悟



私はこの春から朝日町で教師としてのスタートを切ることができたことを、大変幸運に思っています。私の出身地は新潟県新潟市の西蒲区です。富山県で採用となり、この町に赴任して約半年が過ぎましたが、まるで故郷に帰ってきたかのような不思議な心地よさを感じています。

ちょうど十年前、私は中学三年生でした。教師になる夢を描き始めたのは、それから三年後でした。中学生の頃の自分は、目の前のことに必死で、将来のことなど想像できませんでした。また私は、何か困ったことがあっても、先生や親には頼りたくない、自分の力で解決したいという考えの生徒でしたから、教師になった未来の自分を知ったら、大変驚くと思います。

ただ今になって、あの頃お世話になった先生が語ってくれた「草魂」という言葉が、私が夢を叶えるために必要不可欠な精神だったと感じています。中学校卒業後も、草のように踏まれても踏まれても立ち上がっていこうとする意識が持てたから、今ここに自分がいるのだと思います。私が子供たちに何を与えていけるかは分かりませんが、今を必死にもがいている子供たち一人一人と、真剣に向き合っていきたいです。

「朝日町に着任して」

朝日中学校 角本 大輔



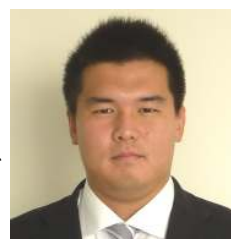
高校時代を過ごした朝日町で働かせていただき、半年が過ぎました。朝日町にある企業や文化、地元の活動など、働いてみて初めて知ることが多く、朝日町の魅力を発見しているところです。

教科は理科を担当しています。朝日中学校の生徒は、授業中の私語がなく、実験に真面目に取り組んでくれます。実験の準備をした甲斐を感じますし、教科書にない実験もやってみようという意欲が出てきて、新しいことに興味が出てきました。夏休みには授業で使うカブトムシを河川敷で探しました。カブトムシを探しに出かけるなんて、これまでやったことがありませんでした。また、今度「天体」について授業で取り上げるので、天体望遠鏡を購入し、月のクレーターを観察してみました。もともと宇宙への興味はありましたが、自分の目で観察すると全然違いました。

授業を通して、身近な自然や科学の面白さを伝えていきたいと思っています。

「一生懸命」

朝日中学校 川村 直弘



4月に朝日中学校に着任して、半年が過ぎました。3月まで学生だった私にとって、この半年は驚きの連続でした。生徒たちが勉強や部活など、学校生活のすべてに全力で取り組んでいることに驚いたことはもちろんですが、私が一番驚いたことは、教職員全員が生徒に負けないくらい活力に満ちあふれていることでした。当たり前のことかもしれませんが、どの職員も生徒のことを考え、真摯に彼らと向き合っています。最初は右も左も分からず、何をやるにも自信をもてなかった私ですが、先輩方にアドバイスを頂いたり、背中を押してもらったりして、少しずつですが教師として成長しているのかな、と感じます。

今の私に出来ることは、どんなことにも一生懸命取り組むことです。生徒と積極的に関わり、彼らの学校生活が充実したものになるように支えていこうと思います。まだ経験は浅いですが、他の先生方をお手本にして頑張っていく覚悟です。



授業力アップ研修会1 理科実験

7月28日(月)

講師：富山県総合教育センター科学情報部

澤田昭芳先生 杉下暁光先生 西谷裕子先生

実験：▽骨と筋肉の動き

▽振り子の実験のポイント



「骨と筋肉の動き」では、割り箸を骨に、バルーン風船を筋肉に見立てた模型を作成しました。「振り子の実験のポイント」では、割りばしの切れ込みを利用して、振り子の長さを簡単に調整できる実験方法や、振れ角の設定や計時、記録など、どの子供にも実験の役割をもたせることが、子供の学習意欲につながることを指導していただきました。

参加された先生方からは、「グループ内で実験の役割をローテーションで交代しながら、すべて体験するようになれば、子供は、振れ角の大きさや振り子の長さ、振り子の周期の時間などに目が向きやすくなるのではないか。」という意見をいただきました。

授業力アップ研修会2 学級・人間関係づくり



7月29日(火)

講師：さみさと小学校 教諭 兵庫秀典 先生

テーマ：▽生きる力を育む授業づくり

▽プロジェクト・アドベンチャー

研修では、学級づくりのために、子供たちのよりよいコミュニケーションをつくるエクササイズを指導していただきました。参加された先生方からは、「ホワイトボードを使うことで、自分の思いを簡単に伝えることができた。」「オープンクエスチョンやあいづちを通して会話を交わすことで、相手を理解する、自分のことを理解してもらっているという気持ちになった。」「実際にやってみることで、そのプログラムのよさを分かることができた。人間関係がうまくいっていると授業でも子供たちは深くかかわれるのだと思った。」など、大変参考になったという感想をたくさんいただきました。

学力向上プログラム研修会

7月31日(木)

講師：上越教育大学教職大学院教授 瀬戸 健 先生

演題：「よい授業が、子供たちの学び合う学級をつくる」

瀬戸先生からは、子供たちが学び合う学級をつくるために、教師は子供たちとどのように関わればよいか、また、一人一人の子供の学ぶ力を育てるために、教師はどのように指導することが重要かを示唆いただきました。

参加した先生方からは、「『子供に求めたときこそ、教師もいっしょにやってみる』という瀬戸先生のお話から、学級づくりのスタート地点に戻り、児童生徒理解を大切にしていきたい。」「ある子供が、教師の声がけや友達との会話をきっかけに、自信をもって他の子供に話し出す授業のVTRが印象的でした。しっかり子供たちと関わり、魅力ある授業づくりをしていきたい。」など、感銘を受けた感想をたくさんいただきました。

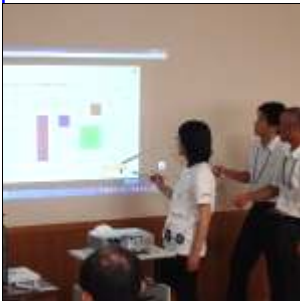


情報教育研修会

8月5日(火)

講師：町情報研究調査員

内容：▽電子黒板機能付きプロジェクター
を利用した授業展開
▽iPadの効果的な活用



先生方からは、「電子黒板を活用すれば授業の幅が広がる。」「iPadで動画を再生するアプリは、体育のマットや跳び箱、なわとびなどで活用できる。」という感想をいただきました。

郷土を学ぶ研修会

8月20日(水)

講師：町郷土教材開発研究調査員

まいぶんKAN 学芸員 高塩さおり 先生

史跡、施設見学：

▽洋服工場、バタバタ茶伝承館、浜山玉つくり遺跡、御亭、一里塚、関の館



浜山玉つくり遺跡



境一里塚

学力向上に関する講演会

8月11日(月)

<*主催：魚津地区教育センター協議会 主管：朝日町教育センター>

講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一 先生

演題：「授業のねらいを明確にし、子供の実態に合わせた授業」－算数・数学科－



笠井先生からは、算数・数学科における言語活動の考え方や取り入れ方、学習のねらいを明確にもち、子供たち一人一人の実態に応じた到達目標を立て、その子供に合った言語活動を指導することの大切さ、評価の生かし方などを実際の授業の場面を想定しながら教えていただきました。

受講後の感想には、「思考力、判断力、表現力が個々の意味のものではなく、関連しているものであるということが理解できた。」「子供が学びの主体者となる授業とはどういうものか、課題提示、発問の仕方、適用問題などを具体的に示していただいたので、とても分かりやすかった。」という内容のものが多く、授業をつくるヒントを数多く得ることができた研修会でした。

学校教育運営研修会

8月12日(火)

講師：トリノオリンピック アルペン監督
山中 茂 先生

演題：「スポーツ指導で得た経験」



長年のスキーを通じた指導者としての経験談をもとに、コーチ、保護者、地域の方などが共通した意識をもとに選手指導に当たることの重要さと指導者としての要点を示唆いただきました。

8月18日(月)

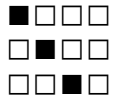
講師：立山カルデラ砂防博物館 学芸課長
飯田 肇 先生

演題：「立山の自然の魅力」－雪の壁から氷河まで－



立山カルデラ砂防博物館研究チームによる日本初の氷河の確認という偉業に大きな感銘を受けるとともに、郷土の山、立山連峰を誇りに感じる事ができた実りのある研修会でした。

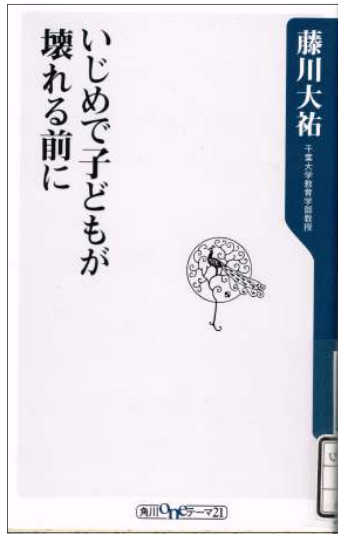
センターの新刊図書、教育雑誌の案内



「分かりやすさ」を支援する
iPad活用



藤川大祐先生(著)
できることはたくさんある



河村茂雄先生(著)
Q-U式授業づくり



田村 学先生(著)
思考ツールが探究型の授業に変える



金 大竜先生(著)
子どもがぐんぐん集中する授業の指導の基本



河村茂雄先生(著) 学級がゆるみがちな先生の対策、学級がたかくなりがちな先生の対策



▽他にも、金大竜、中村健一、土作彰、依原正仁先生(著)、「子どもと先生が心底笑えるクラスづくり」も入りました。

新しく【DVD 小学校理科】が入りました。
○太陽と月 ○月や星 ○太陽とかげの動き、日光のせいしつ
○こん虫と植物 ○植物の発芽と成長、魚や人の誕生
○流れる水のはたらき ○土地のつくりと変化 ○天気の変化

<編集後記>

研修会で、子供たちが学び合う授業づくりのキーワードは「学び合う素地をつくること」と指導していただきました。

「顔を見て聞く」「思いを感じて聞く」「頷いて聞く」などを身に付けることが大切であり、このことは自己肯定感を養うことにもつながると思います。

子供たちに肯定的な言葉と気持ちを発信することができるか、振り返ってみたいと思います。

□□朝日町教育センター職員■

所 長 永井 孝之
所長代理 村田 博史
所 員 長谷川 互
助 手 大菅 栄子

【発行：朝日町教育センター】

〒939-0743
富山県下新川郡朝日町道下1053-1
TEL/FAX 0765-83-0279
E-Mail asahi-ec@tym.ed.jp
ウェブサイト http://www.asahi-